

## 若手のチャレンジ

### 仕事として

### 認められたい

相原啓司さん

### サラリーマンから農家へ

就農して6年目を迎える相原啓司さん（東古泉）。以前はサラリーマンだった相原さんが農業をはじめたきっかけとは。

「よく聞かれるんですけど、田舎暮らしがしたいとか、無農薬栽培に関心があるとか、残念ながらそんな理由ではなかったんです。ただ、仕事はもう転職したくなくて、一生続けたいなと考えたとき、農業をしようと思いました」

相原さんの実家は農家。けれども小さいときから機械に触ったことはなかったそうです。農業をはじめめるにあたり苦労はなかったのでしょうか。



まわりにはいっぱいいますからね。年配の方は、長年の経験から理論でなく勘で話すけど、ある程度その勘を納得して、自分で理論を肉付けしています」

### 認定農業者

相原さんも3年前に父から経営移譲を受け、認定農業者になりました。

「農家って、社長兼社員ですよ。今パソコン入力に複式簿記で青色申告をしています。経営を安定させるためなんですけど、若いからこそちゃんと経営について考えたと思っています。あと若い人が

増えてほしいですね」

### 職業としての農業

「朝、田で草とか引いてると、近所のおばちゃんが『相原くんえらいねー』って言うんですよ。おかしいですよ。役場で仕事していてえらいねなんて言われますか？まだ農業Ⅱボランティア、職業として認められてないんだと感じます」

職業としての農業の認知を強く願う相原さん。消費者の立場に立つて次のようにも語ってくれました。

### 食生活の支え

「いよつこらに出荷しているんですけど、並べてパッと買ってもらえてすぐになくなるのをみると、やっぱり嬉しいですね。でも、なんで産地直送が人気なんですかね。新鮮で安心というイメージがあるからかなと思うと、農業への関心を思い、農家としてはポジティブリストの遵守や栽培履歴の記帳義務の徹底をしなければいけないと思います。農家は食生活の支えをしますからね。そして、消費者にもきちんと農作物を選んでほ



枝豆の選別作業をする相原朝さん、啓司さん、君子さん



しいなと思いますね。あとは食べ残しをしないこと」  
そう話してくれた相原さんからは、農業に対する熱い思いが伝わってきました。